

令和元年第3回（9月）上越市議会定例会

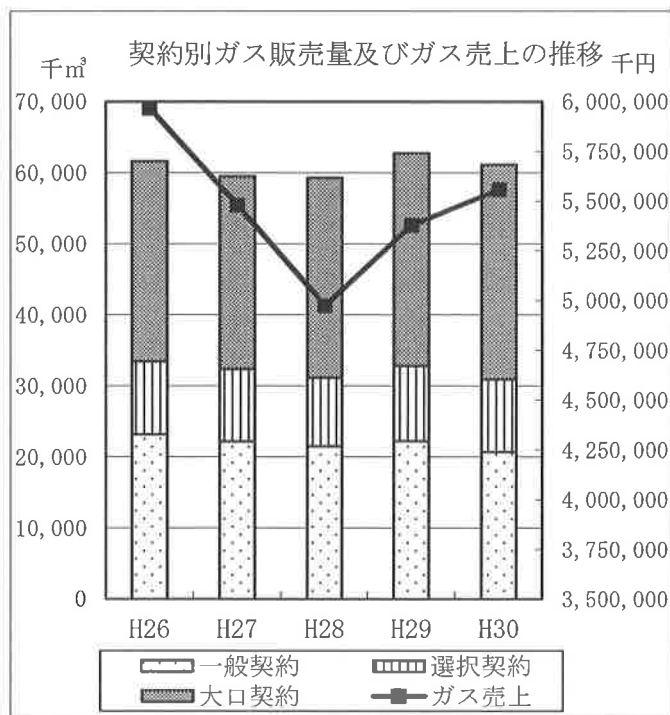
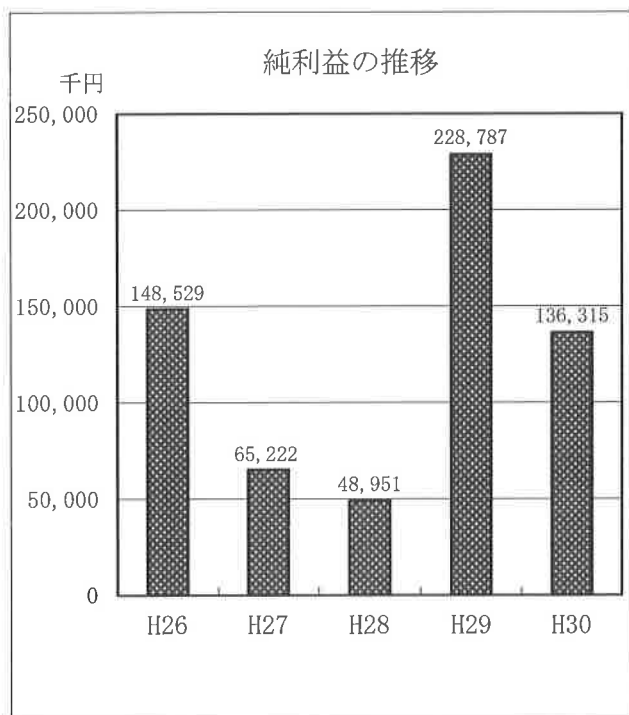
農政建設常任委員会資料

案件番号	案件名	提出課	ページ
議案第111号	平成30年度上越市ガス事業会計決算認定及び利益の処分について	総務課	1～33
議案第112号	平成30年度上越市水道事業会計決算認定及び利益の処分について		34～71
議案第113号	平成30年度上越市工業用水道事業会計決算認定について		72～76
議案第130号	上越市水道事業給水条例の一部改正について		77
議案第131号	上越市企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正について		78
議案第120号	令和元年度上越市水道事業会計補正予算（第1号）		79～80

所管委員会	農政建設常任委員会
関係案件	議案第111号
提出課	総務課

平成30年度上越市ガス事業会計決算の概要

- ガス販売量は、一年を通じて平均気温が前年に比べ高く推移し、給湯及び暖房需要が減少したことから、一般契約が前年度に比べ153.2万 m^3 (6.9%) 減少し、全体では前年度に比べ164.4万 m^3 (2.6%) 減少の6,111.6万 m^3 となった。
- 収益的収支では、販売量の減少に加え、LNG輸入価格の上昇により平成30年10月検針分から原料調整費制度の上限額を超えたことから、売上利益は前年度に比べ1億3,582万円 (6.2%) 減少した。また、支出では、原料価格の上昇により売上原価が3億1,573万円 (9.9%) 増加した一方、固定資産の耐用年数到来に伴い減価償却費が8,440万円 (5.2%)、企業債利息が796万円 (11.4%) それぞれ減少した結果、当年度純利益は前年度に比べ9,247万円減の1億3,631万円となった。
- 資本的収支では、経年管更新事業は計画よりも2年前倒しで完了したほか、低圧導管耐震化事業も耐震化率が100%になるなど、管路の耐震化を進めた。
- 大正7年に公営ガス事業として供給を開始してから100周年を迎えたことから、記念誌の発行や式典の挙行など記念事業を行ったほか、100周年の機会を活かし、ガス水道フェア等のイベントなど、これまでの取組を拡充するとともに、引き続きガス料金割引制度など多様な料金メニューのPRに注力するなど、新築需要の獲得に向けた取組を実施した。



※選択契約は、一般契約と大口契約以外の契約

1 業務の概要

◇供給戸数は、0.1%増加。ガス販売量は家庭用の需要が減少し、前年度に比べ164.4万 m^3 (2.6%)減少。

(都市ガス)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度対比	
						増減数	増減率
1 行政区域内戸数	73,796	74,132	74,588	75,063	75,483	420	0.6%
2 供給区域内戸数	54,783	55,154	55,653	56,156	56,469	313	0.6%
3 供給戸数	46,468	46,393	46,486	46,541	46,597	56	0.1%
4 普及率	84.82	84.12	83.53	82.88	82.52	△ 0.36	-
5 年間ガス購入量	61,748,231	59,649,079	59,517,491	62,808,548	61,170,668	△ 1,637,880	△ 2.6%
6 年間ガス送出量	61,747,053	59,642,134	59,501,444	62,832,801	61,175,908	△ 1,656,893	△ 2.6%
7 年間ガス販売量	61,621,031	59,525,332	59,266,094	62,761,029	61,116,046	△ 1,644,983	△ 2.6%
8 一日最大送出量 (一日最大月日)	294,270 (2/9)	287,217 (1/25)	288,679 (1/24)	300,746 (1/24)	292,343 (2/13)	△ 8,403	△ 2.8%
9 一日平均送出量	169,170	162,957	163,018	172,145	167,605	△ 4,540	△ 2.6%
10 一日平均販売量	168,825	162,638	162,373	171,948	167,441	△ 4,507	△ 2.6%
11 有効率	99.86	99.86	99.89	99.94	99.96	0.02	-
12 職員数	51	50	50	49	49	0	0.0%

※年度間の実質的な比較を行うため、平成28年度以前の購入量、送出量及び販売量については、現在の標準熱量の45.0MJに換算した数値で表記

(液化石油ガス)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度対比	
						増減数	増減率
1 供給戸数	185	181	179	178	174	△ 4	△ 2.2%
2 年間ガス送出量	13,360	13,303	12,695	12,844	12,567	△ 277	△ 2.2%
3 年間ガス販売量	14,316	13,587	13,396	13,138	12,632	△ 506	△ 3.9%
4 一日平均送出量	37	36	35	35	34	△ 1	△ 2.9%
5 一日平均販売量	39	37	37	36	35	△ 1	△ 2.8%

※送出量・販売量などは、標準熱量100.4652MJでの数値

2 決算の概要 ※消費税及び地方消費税抜きの金額

(1) 収益的収支

(単位：千円)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度対比		
						増減数	増減率	
収 入	営業収益	5,965,740	5,478,619	4,972,991	5,377,801	5,557,723	179,922	3.3%
	ガス売上	5,965,740	5,478,619	4,972,991	5,377,801	5,557,723	179,922	3.3%
	営業雑収益	293,488	293,402	237,542	263,318	280,195	16,877	6.4%
	附帯事業収益	9,181	8,732	8,827	8,148	6,689	△ 1,459	△ 17.9%
	営業外収益	653,526	606,950	577,041	501,595	458,184	△ 43,411	△ 8.7%
	繰入金	6,762	5,918	5,946	5,434	4,502	△ 932	△ 17.2%
	長期前受金戻	610,927	564,077	514,914	461,528	416,528	△ 45,000	△ 9.8%
	その他営業外収益	35,837	36,955	56,181	34,633	37,154	2,521	7.3%
	特別利益	0	205	129	0	0	0	0
	収入計	6,921,935	6,387,908	5,796,530	6,150,862	6,302,791	151,929	2.5%
支 出	営業費用	6,367,502	5,949,602	5,425,704	5,590,854	5,820,474	229,620	4.1%
	売上原価	3,837,806	3,509,485	3,003,158	3,194,371	3,510,110	315,739	9.9%
	職員給与費	331,368	335,779	309,600	302,326	312,515	10,189	3.4%
	(うち退職給付費)	(0)	(0)	(0)	(0)	(16,628)	(16,628)	皆増
	修繕費	115,854	80,636	97,761	77,618	103,799	26,181	33.7%
	動力費	528	433	430	313	289	△ 24	△ 7.7%
	委託料	142,701	157,583	163,619	166,130	157,088	△ 9,042	△ 5.4%
	減価償却費	1,753,116	1,717,053	1,669,219	1,615,170	1,531,483	△ 83,687	△ 5.2%
	その他営業費用	186,129	148,633	181,917	234,926	205,190	△ 29,736	△ 12.7%
	営業雑費用	279,589	278,963	229,637	251,938	273,139	21,201	8.4%
	附帯事業費用	7,956	6,004	5,617	7,815	5,972	△ 1,843	△ 23.6%
	営業外費用	95,859	88,043	86,578	71,382	65,745	△ 5,637	△ 7.9%
	支払利息	95,626	86,654	78,258	70,049	62,085	△ 7,964	△ 11.4%
	その他営業外費用	233	1,389	8,320	1,333	3,660	2,327	174.6%
特別損失	22,500	74	43	86	1,146	1,060	著増	
支出計	6,773,406	6,322,686	5,747,579	5,922,075	6,166,476	244,401	4.1%	
収支差引(純損益)	148,529	65,222	48,951	228,787	136,315	△ 92,472	△ 40.4%	

(2) 資本的収支

(単位：千円)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度対比		
						増減数	増減率	
収 入	工事負担金	198,751	143,498	115,740	156,288	242,008	85,720	54.8%
	固定資産売却収入	23	111	666	8	39	31	387.5%
収 入 計		198,774	143,609	116,406	156,296	242,047	85,751	54.9%
支 出	建設改良費	1,211,665	1,041,155	1,129,799	977,638	1,041,091	63,453	6.5%
	(うち職員給与費)	(49,835)	(49,381)	(72,908)	(76,434)	(75,362)	(△ 1,072)	(△ 1.4%)
	土地	1,769	0	0	0	0	0	0.0%
	建物	15,683	8,540	841	10,731	42,068	31,337	292.0%
	構築物	730	0	0	2,505	0	△ 2,505	皆減
	機械装置	92,026	37,556	9,183	6,097	145,286	139,189	著増
	車両運搬具	4,537	1,750	0	1,135	6,338	5,203	458.4%
	工具器具備品	4,758	7,447	13,671	17,844	6,171	△ 11,673	△ 65.4%
	ガスメーター	18,385	13,751	13,628	14,000	12,107	△ 1,893	△ 13.5%
	導管本支管	904,007	787,949	958,242	776,222	663,041	△ 113,181	△ 14.6%
	導管供給管	116,175	176,830	130,507	140,782	150,918	10,136	7.2%
	施設利用権	42,000	0	0	0	0	0	0.0%
	ソフトウェア	11,595	7,332	3,727	8,322	15,162	6,840	82.2%
	企業債償還金	398,987	388,105	397,982	408,978	394,647	△ 14,331	△ 3.5%
支 出 計		1,610,652	1,429,260	1,527,781	1,386,616	1,435,738	49,122	3.5%
差 引 不 足 額		1,411,878 (1,411,878)	1,285,651 (1,285,651)	1,411,375 (1,411,375)	1,230,320 (1,230,320)	1,193,691 (1,193,691)	△ 36,629 (△ 36,629)	△ 3.0% (△ 3.0%)
補 填 財 源	過年度分損益勘定 留 保 資 金	446,235	206,381	110,492	109	873	764	700.9%
	当年度分損益勘定 留 保 資 金	965,643	1,079,270	1,189,883	1,186,211	1,183,818	△ 2,393	△ 0.2%
	減 債 積 立 金	0	0	33,000	13,000	2,000	△ 11,000	△ 84.6%
	建設改良積立金	0	0	78,000	31,000	7,000	△ 24,000	△ 77.4%
	計	1,411,878	1,285,651	1,411,375	1,230,320	1,193,691	△ 36,629	△ 3.0%
企 業 債 残 高		4,915,088	4,526,983	4,129,001	3,720,023	3,325,376	△ 394,647	△ 10.6%

※括弧書は、特定収入（工事負担金等）分の消費税及び地方消費税納税計算後の不足額

収益的収支

収入：63億279万円

ガス料金収入 55億5,772万円
その他の収入 3億2,855万円
長期前受金戻入 4億1,652万円

支出：61億6,647万円

原料ガス費 35億1,011万円
人件費 3億2,185万円
修繕費 1億655万円
委託料など 6億3,440万円
支払利息 6,208万円
減価償却費 15億3,148万円
収支差引額（利益） 1億3,631万円

資本的収支

収入：2億4,204万円

工事負担金など 2億4,204万円
収支不足額 11億9,369万円

支出：14億3,573万円

建設改良費 10億4,109万円
企業債償還金 3億9,464万円

留保資金等 補填財源 (減価償却費から長期前受金 戻入分の金額を除いた額)
--

減価償却費等の損益勘定留保資金等で補填する。

3 決算主要項目の内容

(1) 収益的収支

(単位：千円)

(収益的収入) 予算額	決算額	予算額と決算額の増減	予算額と決算額の増減の内訳					
			営業収益	営業雑収益	附帯事業収益	営業外収益	特別利益	
6,941,098	6,772,715	△ 168,383	△ 130,592	△ 39,518	△ 228	1,955	0	
(収益的支出) 予算額	決算額	不用額	不用額の内訳					
			営業費用	営業雑費用	附帯事業費用	営業外費用	特別損失	予備費
6,655,128	6,554,953	100,175	43,415	41,880	2,141	11,725	14	1,000

※以下、消費税及び地方消費税抜きの金額となっているため、上表の金額とは異なる

①収益的収入

◇一年を通じて平均気温が前年に比べ高く推移し、家庭用を中心に給湯及び暖房需要が減少したものの、LNG輸入価格の上昇に伴う販売単価の増により、ガス売上は1億7,992万円(3.3%)増加。

(単位：千円)

項目	29年度決算	30年度決算	比較増減
ガス売上	5,377,801	5,557,723	179,922

○ガス契約区分別使用量実績

1) 戸数

(単位：戸；件)

契約区分	29年度		30年度		増減		増減率		構成比	
	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	29年度	30年度
	一般契約	44,570	535,935	44,581	537,547	11	1,612	0.0%	0.3%	95.8%
小型空調契約	100	1,239	98	1,186	△ 2	△ 53	△ 2.0%	△ 4.3%	0.2%	0.2%
空調契約	25	305	27	311	2	6	8.0%	2.0%	0.1%	0.1%
天然ガススタンド契約	1	12	1	12	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
時間帯別B契約	39	460	39	462	0	2	0.0%	0.4%	0.1%	0.1%
家庭用温水暖房契約	1,706	19,961	1,743	20,588	37	627	2.2%	3.1%	3.7%	3.8%
融雪契約	15	180	16	184	1	4	6.7%	2.2%	0.0%	0.0%
小型空調パッケージ契約	47	565	52	599	5	34	10.6%	6.0%	0.1%	0.1%
コーシエネレーション契約	5	60	6	68	1	8	20.0%	13.3%	0.0%	0.0%
家庭用コーシエネレーション契約	16	192	17	203	1	11	6.3%	5.7%	0.0%	0.0%
大口契約	17	204	17	204	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	46,541	559,113	46,597	561,364	56	2,251	0.1%	0.4%	100.0%	100.0%

2) 使用量

(単位：m³)

契約区分	使用量		増減	増減率	構成比		1か月1戸当たり使用量		
	29年度	30年度			29年度	30年度	29年度	30年度	増減率
一般契約	22,244,813	20,712,576	△1,532,237	△6.9%	35.5%	33.9%	41.5	38.5	△7.2%
小型空調契約	1,007,551	936,945	△70,606	△7.0%	1.6%	1.5%	813.2	790.0	△2.9%
空調契約	712,628	728,095	15,467	2.2%	1.1%	1.2%	2,336.5	2,341.1	0.2%
天然ガススタンド契約	20,718	14,835	△5,883	△28.4%	0.0%	0.0%	1,726.5	1,236.3	△28.4%
時間帯別B契約	4,877,317	4,741,988	△135,329	△2.8%	7.8%	7.8%	10,602.9	10,264.0	△3.2%
家庭用温水暖房契約	1,613,239	1,498,687	△114,552	△7.1%	2.6%	2.5%	80.8	72.8	△9.9%
融雪契約	585,819	320,764	△265,055	△45.2%	0.9%	0.5%	3,254.6	1,743.3	△46.4%
小型空調パッケージ契約	1,076,181	1,289,802	213,621	19.8%	1.7%	2.1%	1,904.7	2,153.3	13.1%
コーン・エネレーション契約	641,191	647,479	6,288	1.0%	1.0%	1.1%	10,686.5	9,521.8	△10.9%
家庭用コーン・エネレーション契約	28,027	26,304	△1,723	△6.1%	0.1%	0.0%	146.0	129.6	△11.2%
大口契約	29,953,545	30,198,571	245,026	0.8%	47.7%	49.4%	146,831.1	148,032.2	0.8%
合計	62,761,029	61,116,046	△1,644,983	△2.6%	100.0%	100.0%	112.3	108.9	△3.0%

○ガス用途区分別使用量・料金実績

1) 戸数

(単位：戸；件)

用途区分	29年度		30年度		増減		増減率		構成比	
	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	30年度
	29年度	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度
家庭用	42,890	515,282	42,991	517,925	101	2,643	0.2%	0.5%	92.2%	92.3%
工業用	70	834	74	864	4	30	5.7%	3.6%	0.1%	0.1%
商業用	2,837	34,106	2,786	33,711	△51	△395	△1.8%	△1.2%	6.1%	6.0%
官庁・学校用	744	8,891	746	8,864	2	△27	0.3%	△0.3%	1.6%	1.6%
合計	46,541	559,113	46,597	561,364	56	2,251	0.1%	0.4%	100.0%	100.0%

2) 使用量

(単位：m³)

用途区分	使用量		増減	増減率	構成比		1か月1戸当たり使用量		
	29年度	30年度			29年度	30年度	29年度	30年度	増減率
家庭用	19,668,956	18,354,938	△1,314,018	△6.7%	31.3%	30.0%	38.2	35.4	△7.3%
工業用	27,055,905	27,117,583	61,678	0.2%	43.1%	44.4%	32,441.1	31,386.1	△3.3%
商業用	6,438,658	6,353,926	△84,732	△1.3%	10.3%	10.4%	188.8	188.5	△0.2%
官庁・学校用	9,597,510	9,289,599	△307,911	△3.2%	15.3%	15.2%	1,079.5	1,048.0	△2.9%
合計	62,761,029	61,116,046	△1,644,983	△2.6%	100.0%	100.0%	112.3	108.9	△3.0%

3) 料金

(単位：円)

用途区分	料金		増減	増減率	構成比		1か月1戸当たり使用料		
	29年度	30年度			29年度	30年度	29年度	30年度	増減率
家庭用	2,277,214,371	2,231,690,198	△45,524,173	△2.0%	42.3%	40.2%	4,419	4,309	△2.5%
工業用	1,714,953,482	1,896,631,161	181,677,679	10.6%	31.9%	34.1%	2,056,299	2,195,175	6.8%
商業用	583,246,058	605,327,069	22,081,011	3.8%	10.9%	10.9%	17,101	17,956	5.0%
官庁・学校用	802,386,786	824,074,783	21,687,997	2.7%	14.9%	14.8%	90,247	92,969	3.0%
合計	5,377,800,697	5,557,723,211	179,922,514	3.3%	100.0%	100.0%	9,618	9,900	2.9%

(単位：千円)

項目	29年度決算	30年度決算	比較増減
営業雑収益	263,318	280,195	16,877

○年度末供給戸数 46,597 戸

30年度実績値

受注工事収益 275,810 千円

受注工事収益(修繕・その他) 4,385 千円

(単位：件)

	新設工事	改造工事	増設工事	撤去工事	その他	合計
29年度	210	459	47	267	34	1,017
30年度	184	414	57	328	25	1,008
差引	△26	△45	10	61	△9	△9

(単位：千円)

項目	29年度決算	30年度決算	比較増減
附帯事業収益	8,148	6,689	△1,459

○LPガス用途区分別使用量・料金実績

1) 戸数

(単位：戸；件)

用途区分	29年度		30年度		増減		増減率		構成比	
	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	年度末戸数	年間延件数	29年度	30年度
家庭用	169	2,030	165	2,001	△4	△29	△2.4%	△1.4%	94.9%	94.8%
商業用	3	36	3	36	0	0	0.0%	0.0%	1.7%	1.7%
その他	6	72	6	72	0	0	0.0%	0.0%	3.4%	3.5%
合計	178	2,138	174	2,109	△4	△29	△2.2%	△1.4%	100.0%	100.0%

2) 使用量

(単位：m³)

用途区分	使用量		増減	増減率	構成比		1か月1戸当たり使用量		
	29年度	30年度			29年度	30年度	29年度	30年度	増減率
家庭用	12,851	12,368	△483	△3.8%	97.8%	97.9%	6.3	6.2	△1.6%
商業用	264	243	△21	△8.0%	2.0%	1.9%	7.3	6.8	△6.8%
その他	23	21	△2	△8.7%	0.2%	0.2%	0.3	0.3	0.0%
合計	13,138	12,632	△506	△3.9%	100.0%	100.0%	6.1	6.0	△1.6%

3) 料金

(単位：円)

用途区分	料金		増減	増減率	構成比		1か月1戸当たり使用料		
	29年度	30年度			29年度	30年度	29年度	30年度	増減率
家庭用	5,187,414	4,980,221	△207,193	△4.0%	96.8%	96.8%	2,555	2,489	△2.6%
商業用	107,948	100,530	△7,418	△6.9%	2.0%	2.0%	2,999	2,793	△6.9%
その他	62,382	61,200	△1,182	△1.9%	1.2%	1.2%	866	850	△1.8%
合計	5,357,744	5,141,951	△215,793	△4.0%	100.0%	100.0%	2,506	2,438	△2.7%

○年度末供給戸数 174 戸

30年度実績値

受注工事収益 74 千円

(単位：千円)

項 目	29年度決算	30年度決算	比較増減
営 業 外 収 益	501,595	458,184	△ 43,411

○営業外収益の内訳

(単位：千円)

		29年度	30年度	差 引
受 取 利 息	預金利息	130	152	22
	貸付金利息	26	2	△ 24
	小 計	156	154	△ 2
繰 入 金	児童手当	5,434	4,502	△ 932
	小 計	5,434	4,502	△ 932
長 期 前 受 金 戻 入	長期前受補助金戻入	18	223	205
	長期前受工事負担金戻入	442,191	398,479	△ 43,712
	長期前受受贈財産評価額戻入	4,775	3,211	△ 1,564
	長期前受繰入金戻入	14,544	14,615	71
	小 計	461,528	416,528	△ 45,000
雑 収 益	貸付料	2,691	3,113	422
	下水道等受託収益	26,815	28,782	1,967
	補償修繕収益	1,136	268	△ 868
	その他	3,835	4,837	1,002
	小 計	34,477	37,000	2,523
	合 計	501,595	458,184	△ 43,411

②収益的支出（中期経営計画主要事業は事業名に◎印）

◇LNG輸入価格の上昇に伴う原料価格の増により、売上原価が3億1,573万円（9.9%）増加。

（単位：千円）

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
原料ガス購入業務	3,194,371	3,510,110	315,739
経費内訳			
売上原価	3,510,110		
【目的】			
都市ガスを安定的に供給するために原料ガスを確保する。			
【概要及び成果】			
	29年度	30年度	差引
ガス購入量（m ³ ）	62,808,548	61,170,668	△ 1,637,880

（単位：千円）

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
供給所運転管理業務	13,480	18,407	4,927
経費内訳			
備用品費	2,776	保険料	206
修繕費	9,733	通信運搬費	2,235
動力費	185	委託料	1,192
光熱燃料費	508	手数料	131
使用ガス費	1,441		
【目的】			
ガス供給所の維持管理等の実施及び定期的な点検整備により、施設等の長期使用に努め、施設の更新需要の抑制を図る。			
【概要及び成果】			
定期的な点検整備を実施し、適正な維持管理に努めた。			
＜主な費用＞			
備用品費	付臭剤		2,709 千円
修繕費	北本町ガス供給所ヘッダー室改修工事		9,644 千円
通信運搬費	各供給所専用回線使用料		1,758 千円

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
供給施設維持管理業務	166,221	93,564	△ 72,657

経費内訳

報酬	2,035	保険料	235
備用品費	364	通信運搬費	1,275
修繕費	12,745	委託料	24,777
特別修繕引当金繰入額	15,000	手数料	460
動力費	104	印刷製本費	121
光熱燃料費	2,526	租税課金	228
使用ガス費	222	負担金及び補助	10
賃借料	1,160	固定資産除却費	32,302

【目的】

地区整圧器室、整圧器の維持管理等の実施及び定期的な点検整備により、施設等の長期使用に努め、施設の更新需要の抑制を図る。

【概要及び成果】

整圧器室等の定期的な点検整備を実施し、適正な維持管理に努めた。不要になったガス管撤去工事の減少により、前年度に比べ事業費が減少した。

<主な費用>

報酬	非常勤一般職 1人	2,035 千円
修繕費	寺A整圧器改造工事	2,601 千円
	雁子浜地区整圧器入替工事	2,900 千円
委託料	北本町ガス供給所土壌タール汚泥掘削除去業務委託	4,052 千円
	維持管理業務委託	12,859 千円
	北本町ガス供給所地下水水質調査委託	128 千円
固定資産除却費	北本町2丁目地内中圧管撤去工事	4,573 千円
	柿崎地内廃止中圧管撤去工事	2,300 千円
	旧大瀧第二ガス供給所解体工事	3,561 千円
	旧大瀧区営業所解体撤去工事	11,466 千円

【課題及び今後の方向性】

旧北本町ガス供給所構内の土壌中の特定有害物質の拡散監視を目的とした地下水調査を令和6年度まで年1回、令和7年度以降は2年に1回実施し、結果を公表する。

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
◎ 供給所統廃合事業	20,341	20,892	551
経費内訳			
固定資産除却費	20,892		
【目的】			
老朽化した北本町ガス供給所を廃止することにより、コストの軽減及び施設の効率化を図る。			
【概要及び成果】			
平成26年度に南部ガス供給所の受入設備増強工事を実施後、北本町ガス供給所の原料ガスの受入を停止し、平成29年度にはガスホルダーを解体した。平成30年度は北本町ガス供給所管理棟等の施設、設備を解体撤去し、事業は完了した。			
<主な費用>			
固定資産除却費	北本町ガス供給所管理棟他解体工事		20,892 千円

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
ガス管修繕業務	25,282	34,938	9,656
経費内訳			
報酬	2,591	手数料	4
備用品費	817	印刷製本費	144
修繕費	31,229	租税課金	32
保険料	121		
【特定財源】			
その他雑収益	268		
【目的】			
ガス漏えい及び導管に係る事故の未然防止と拡大防止を図る。			
【概要及び成果】			
ガス事業関係法令並びにガス漏えい及び導管事故等処理要領に基づくガス導管故障箇所の調査修繕を実施した。			
本支管・供給管修理件数 平成30年度 25件 (平成29年度 37件)			
<主な費用>			
修繕費	責任修繕工事委託		26,953 千円
	責任修繕工事舗装本復旧		2,301 千円
	補償修繕工事委託		233 千円

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
ガスメーター取替業務	61,643	61,603	△ 40
経費内訳			
報酬	13	光熱燃料費	2
備用品費	51	委託料	12,816
修繕費	48,721		
【目的】 計量法に基づき、検定満期を迎えたガスメーターを取り替える。			
【概要及び成果】 平成30年度に検定満期を迎えるガスメーターを取り替えた。 ＜主な費用＞			
修繕費	取替用ガスメーター（取替数5,252個）	48,472 千円	
委託料	取替業務委託	12,816 千円	

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
受注工事業務	242,969	263,783	20,814
経費内訳			
報酬	1,332	保険料	32
備用品費	191	通信運搬費	6
修繕費	2,760	委託料	1,148
光熱燃料費	44	工事請負費	256,588
賃借料	402	器具販売原価	1,280
【特定財源】 受注工事収益 263,783			
【目的】 安全で安定した供給を行うための装置工事の施工に係る管理を行う。			
【概要及び成果】 申込みのあった内管工事の設計審査及び竣工時の検査を実施するとともに、適正な施工となるよう指定工事業者に対して指導・監督を行った。 ＜主な費用＞			
報酬	非常勤一般職 1人	1,332 千円	
委託料	工事受付システム維持管理費	1,148 千円	
工事請負費	受注工事請負費	256,588 千円	

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
液化石油ガス販売事業	7,815	5,972	△ 1,843
経費内訳			
液化石油ガス売上原価	2,154	委託料	489
備用品費	408	手数料	53
旅費交通費	5	印刷製本費	9
修繕費	1,069	負担金及び補助	106
光熱燃料費	29	雑費	24
賃借料	48	減価償却費	1,474
保険料	7	工事請負費	66
通信運搬費	31		
【特定財源】			
液化石油ガス売上	4,424	長期前受金戻入	1,474
液化石油ガス受注工事収益	74		
【目的】			
液化石油ガスを安全で安定的に供給する。			
【概要及び成果】			
液化石油ガス供給施設（大湊区）の維持管理を適正に行い、安全で安定的にガス供給を行った。			
販売量	平成30年度実績12,632m ³ （平成29年度に対し506m ³ 、3.9%の減）		
供給戸数	平成30年度実績174戸（平成29年度に対し4戸、2.2%の減）		
＜主な費用＞			
備用品費	取替用ガスメーター（取替数36個）		324 千円
修繕費	調整器取替修繕工事		665 千円
	責任修繕工事委託		358 千円
委託料	配送業務委託		366 千円

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
◎ 白ガス灯外内管対策	1,920	439	△ 1,481
経費内訳			
修繕費	68	保険料	28
光熱燃料費	31	委託料	312
【目的】			
<p>需要家の敷地に埋設された経年埋設内管（白ガス管）を耐震性・耐腐食性に優れたポリエチレン管へ入替えすることで、ガス漏れ事故の防止及び耐震性の向上を図る。</p>			
【概要及び成果】			
<p>需要家に対し、改善工事の趣旨を周知・説明し、白ガス灯外内管の削減を図った。 合併前上越市では、平成24年度より3巡目の周知及び折衝を完了していることから、平成30年度は内管漏えい検査及び消費機器調査時に改善折衝を行った。</p> <p>※灯外内管：敷地境界からガスメーターまでのガス管 30年度実績 折衝件数 863件 改善件数 224件</p> <p><主な費用> 委託料 白ガス管折衝業務委託 312千円 (折衝件数 863件)</p>			

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
◎ ガス管漏えい検査	2,428	3,677	1,249
経費内訳			
委託料	3,677		
【目的】			
<p>道路に埋設されているガス管の漏えい検査を実施し、安全で安定した供給を確保する。</p>			
【概要及び成果】			
<p>ガス供給区域を4ブロックに分割し、ガス事業法に基づき4年に1回の頻度で、計画的に漏えい検査を行う。平成30年度は合併前上越市で実施した。</p> <p><主な費用> 委託料 導管漏えい検査業務委託 3,677千円 (検査延長 139,680 m)</p>			

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
◎ 定期保安調査	33,686	35,171	1,485
経費内訳			
報酬	1,465	保険料	28
備用品費	259	通信運搬費	81
修繕費	733	委託料	31,555
光熱燃料費	32	印刷製本費	1,018
【目的】			
ガス事業法に基づく内管漏えい検査及び消費機器調査を実施して、漏えいや消費機器の不備による事故を未然に防止することで、需要家の安全なガス使用を確保する。			
【概要及び成果】			
ガス事業法に基づき、4年に1回の頻度で内管漏えい検査及び消費機器調査を実施した。			
＜定期保安調査件数＞			
戸建一般需要家検査		8,121 件	
集合一般需要家検査		2,865 件	
準特需要家検査		292 件	
閉栓灯外内管検査		1,224 件	
不在需要家訪問		672 件	
		13,174 件	
＜主な費用＞			
委託料	消費機器調査及び内管検査業務委託		31,555 千円

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
マッピングシステム整備業務	2,596	2,599	3
経費内訳			
報酬	1,690	委託料	900
備用品費	9		
【目的】			
ガス水道管路情報システム（マッピング）の管理を行い、ガス施設の維持管理及び将来計画に活用する。			
【概要及び成果】			
工事竣工に伴うガス管情報の修正などを行い、システムを適正に維持管理した。			
＜主な費用＞			
報酬	非常勤一般職 1人		1,690 千円
委託料	マッピングシステムソフト保守業務委託		900 千円

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
都市ガスPR活動業務	5,236	7,761	2,525

経費内訳

報酬	185	通信運搬費	39
備用品費	14	手数料	20
修繕費	131	租税課金	12
光熱燃料費	89	需要開発費	7,189
保険料	82		
【特定財源】			
その他雑収益	221		

【目的】

クリーンなエネルギーで供給安定性の高い都市ガスを幅広くPRすることで、新規の業務用及び家庭用の販売拡大を目指すとともに、既存需要家の都市ガス離れの防止を図る。

【概要及び成果】

家庭用ガス販売では、新築住宅の都市ガス採用を増やすため、住宅販売会社等のサブユーザーへの営業活動やメディアを活用したPRなどを実施。既築住宅については料金プランなどを提案し、都市ガスの良さや便利さ、安全性、経済性について情報発信を行った。

業務用ガス販売は、新規開拓による大口需要家の獲得を目指し、重油などの他燃料を使用している工場などに対し、都市ガスへの燃料転換を勧めた。

○ガス水道フェア来場者数

	29年度	30年度	増減
上越会場	4,023	5,164	1,141
柿崎会場	234	205	△ 29
大潟会場	1,328	1,837	509
中郷会場	259	184	△ 75
合計	5,844	7,390	1,546

○クッキング教室参加者数

	29年度	30年度	増減
開催回数	4	6	2
参加者数	72	106	34

○まちなかショールーム来場者数

	29年度	30年度	増減
来場者数	898	1,709	811

<主な費用>

需要開発費	ガス水道フェア経費	2,394千円
	ガス広告経費	2,592千円
	まちなかショールーム経費	1,250千円

【課題及び今後の方向性】

ガス水道フェアやまちなかショールームなどのPRイベントへの来場者は増加傾向にあるが、新築時の都市ガス採用率や家庭用選択件数の増加などの結果が表れてくるには時間を要することから、引き続き料金割引制度を始めとした都市ガスの利便性のPRに努める。

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
◎都市ガス設置機器助成金	1,180	1,060	△ 120

経費内訳

需要開発費

1,060

【目的】

人口減少やオール電化等の他燃料との競合などにより減少傾向にある家庭用ガス販売量維持のため、都市ガス機器の設置に対し助成金を交付する。

【概要及び成果】

省エネ型高効率給湯器「エコジョーズ」の設置費助成については、助成対象を拡大して取組んだ結果、前年度を上回る申込みがあった。家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファーム」は新築費用の節減を求める傾向がある中で、申込みに至らなかった。

<主な費用>

需要開発費

(温水暖房機器同時設置の場合)

エコジョーズ 30千円/台 × 32台 = 960千円

(温水暖房機能付本体設置の場合)

エコジョーズ 20千円/台 × 5台 = 100千円

○助成金制度実績件数

	29年度	30年度	増減
エネファーム	1	0	△ 1
エコジョーズ	26	37	11

【課題及び今後の方向性】

エコジョーズの助成件数増加は、対象拡大に加え制度の認知度が向上してきたことによるものと考えられるため、引き続きサブユーザー及びエンドユーザーに制度が浸透するよう努める。

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
料金徴収委託業務	81,922	83,952	2,030
経費内訳			
備用品費	116	委託料	73,843
修繕費	36	手数料	180
賃借料	2,028	雑費	596
通信運搬費	7,153		
【特定財源】			
その他雑収益	28,782		
【目的】			
民間ノウハウを活用することで、事務効率の向上とお客様サービスの充実を図る。			
【概要及び成果】			
民間事業者に包括的な料金徴収業務を委託し、収納率の維持向上に努めた。 委託期間：平成27年4月～令和2年3月（5年間）			
＜主な費用＞			
賃借料	料金システムリース料	2,028 千円	
通信運搬費	料金納入令書等郵送料	7,130 千円	
委託料	料金等徴収業務委託	61,842 千円	
	料金口座振替及びコンビニ収納手数料	6,642 千円	
	開栓時消費機器調査業務委託	4,232 千円	
＜開栓時調査＞			
戸建一般需要家検査	896 件		
集合一般需要家検査	3,254 件		
準特需要家検査	44 件		
【課題及び今後の方向性】			
令和2年度以降も包括業務委託を実施し、引き続き収納率の維持向上に努めるとともに、受託業者と日常的な連携を維持することにより情報や課題を共有し、業務レベルの維持向上に継続して取り組んでいく。			

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
無線設備管理業務	41	86	45
経費内訳			
委託料	45	手数料	41
【目的】			
ガス漏えい対応や災害時などにおける緊急連絡用無線設備を適正に維持管理する。			
【概要及び成果】			
電波法に基づく許可申請及び設備の維持管理を行った。平成30年度は、無線基地局及びアンテナ移設検討のために電波範囲調査を行った。			
＜主な費用＞			
委託料	基地局無線シミュレーションデータ作成業務		17 千円
手数料	無線局電波使用料		28 千円
	無線局検査手数料		13 千円

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
局ネットワーク管理業務	3,230	3,362	132
経費内訳			
備用品費	37	通信運搬費	28
修繕費	56	委託料	3,091
賃借料	150		
【目的】			
局のネットワーク、サーバ等について、セキュリティを含め適正に維持管理する。			
【概要及び成果】			
局のネットワーク、ホームページ及びOA機器等の維持管理を行った。			
＜主な費用＞			
委託料	電算処理運用支援業務委託		2,101 千円
	局内イントラネット保守業務委託		915 千円

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
入札業務	1,974	2,050	76
経費内訳			
報酬	1,398	委託料	1
備用品費	16	印刷製本費	6
賃借料	10	負担金及び補助	619
【目的】			
建設工事等について、透明性、公平性及び競争性の高い入札を適正かつ円滑に執行する。			
【概要及び成果】			
建設工事等を透明性の高い電子入札システムにより執行した。また、ガス水道本支管工事において、制限付き一般競争入札や「一抜け方式」を引き続き実施するなど、公平性及び競争性の確保に努めた。			
＜主な費用＞			
報酬	非常勤一般職 1人		1,398 千円
負担金及び補助	電子入札システム使用負担金		600 千円
【課題及び今後の方向性】			
透明性、公平性及び競争性の高い入札を適正かつ円滑に実施するため、必要に応じて入札制度の見直しを行う。			

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
庁舎維持管理業務	7,236	7,490	254
経費内訳			
備用品費	30	保険料	24
修繕費	346	通信運搬費	546
光熱燃料費	2,205	委託料	2,613
使用ガス費	457	手数料	1,175
賃借料	56	雑費	38
【特定財源】 その他雑収益	2,642		
【目的】 本局庁舎の適切な維持管理により執務環境を確保する。			
【概要及び成果】 本局庁舎施設及び設備の定期的な保守点検等を実施し、庁舎環境の安全確保に努めた。また、庁舎設備の故障等に速やかに対応した。 ＜主な費用＞			
光熱燃料費	庁舎電気料金	1,270 千円	
委託料	庁舎維持管理業務委託	1,611 千円	

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
経理業務	2,255	2,392	137
経費内訳			
報酬	1,515	印刷製本費	16
委託料	853	負担金及び補助	8
【目的】 地方公営企業法を始めとする関係法令に基づき適正な会計処理を行うことにより、事業経営の健全性を維持する。			
【概要及び成果】 上越市ガス水道事業会計規程に基づく経理処理を行うとともに、会計システムを適正に管理した。 ＜主な費用＞			
報酬	非常勤一般職 1人	1,515 千円	
委託料	企業会計システム保守業務委託	853 千円	

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減						
◎ 職 員 研 修	1,751	1,156	△ 595						
経費内訳									
備用品費	228	手数料	18						
旅費交通費	505	負担金及び補助	405						
【目的】									
外部研修、内部研修を通じて職員の知識及び技術力の向上を図る。									
【概要及び成果】									
<p>職員の技術や知識の向上・継承のため、ガス管接続を行う実地研修などの内部研修や日本ガス協会等が主催する外部研修への参加を行った。また、職員に技術資格取得を奨励するため、受検費用の一部助成を行った。</p> <p><主な費用></p> <table> <tr> <td>旅費交通費</td> <td>研修会旅費交通費</td> <td>505 千円</td> </tr> <tr> <td>負担金及び補助</td> <td>研修会参加費等</td> <td>405 千円</td> </tr> </table>				旅費交通費	研修会旅費交通費	505 千円	負担金及び補助	研修会参加費等	405 千円
旅費交通費	研修会旅費交通費	505 千円							
負担金及び補助	研修会参加費等	405 千円							
【課題及び今後の方向性】									
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 職員の技能のより一層の向上を図るため、定期的に職員の技能を確認し、研修カリキュラムを検証し、効率的、効果的な研修を進めていく。 </div>									

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
その他営業費用	1,964,061	1,929,764	△ 34,297
経費内訳			
報酬	2,161	保険料	1,155
給料	151,004	通信運搬費	68
手当	73,341	委託料	1,414
賞与引当金繰入額	19,740	手数料	167
法定福利費	47,985	印刷製本費	54
法定福利費引当金繰入額	3,818	交際費	19
厚生福利費	481	負担金及び補助	4,137
退職給付引当金	16,628	食糧費	1
備用品費	3,888	租税課金	9
旅費交通費	699	貸倒引当金繰入額	262
光熱燃料費	289	雑費	1,906
使用ガス費	52	固定資産除却費	68,535
賃借料	468	減価償却費	1,531,483

【概要及び成果】

<主な費用>

職員給与費（営業費用に係る職員分）

(単位：千円)

	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
29年度	38人	152,263	98,219	0	51,844	302,326
30年度	38人	151,004	93,081	16,628	51,803	312,516
比較	0人	△ 1,259	△ 5,138	16,628	△ 41	10,190

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減			
その他営業雑費用	8,969	9,357	388			
経費内訳						
給料	4,406	法定福利費	1,519			
手当	2,695	法定福利費引当金繰入額	118			
賞与引当金繰入額	602	厚生福利費	17			
【特定財源】						
受注工事収益	9,357					
【概要及び成果】						
申込みのあった内管工事の設計審査及び竣工検査を実施するとともに、適切な施工となるよう指定工事業者に対して指導・監督を行った。						
＜主な費用＞						
職員給与費（営業雑費用に係る職員分）						
(単位：千円)						
	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
29年度	1人	4,373	3,015	0	1,566	8,954
30年度	1人	4,406	3,297	0	1,637	9,340
比較	0人	33	282	0	71	386

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
支払利息	70,049	62,085	△ 7,964
経費内訳			
企業債利息	62,085		
【目的】			
既発行企業債に係る利息を確実に支払うとともに、新規発行を抑制して支払利息の削減を行い、将来の財務負担を軽減する。			
【概要及び成果】			
中長期的な経営収支見通しに基づき、内部留保資金を活用し企業債の新規発行を行わないことにより、支払利息額が着実に減少した。			
＜支払先＞			
財務省		28,307 千円	
地方公共団体金融機構		33,778 千円	

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
その他営業外費用	1,419	4,806	3,387
経費内訳			
雑支出	3,660	その他特別損失	850
固定資産売却損	296		
【概要及び成果】			
＜主な費用＞			
雑支出	住民訴訟（ガス水道工事談合損害賠償請求 履行請求控訴事件）に係る費用		1,309 千円
	消費税納税計算に伴う支出		2,343 千円
固定資産売却損	車両2台の入替に伴う売却損		296 千円

(2) 資本的収支

(単位：千円)

(資本的収入) 予算額	決算額	翌年度繰越 財源額	予算額と決 算額の増減	予算額と決算額の増減の内訳	
				工事負担金	固定資産売却収入
266,133	242,227	21,058	△ 23,906	△ 23,948	42
(資本的支出) 予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	不用額の内訳	
				建設改良費	企業債償還金
1,747,544	1,512,037	119,073	116,434	116,430	4

※以下、消費税及び地方消費税抜きの金額となっているため、上表の金額とは異なる

①資本的収入

◇下水道関連工事が増加したことにより、工事負担金が54.8%増。

(単位：千円)

項目	29年度決算	30年度決算	比較増減
工事負担金	156,288	242,008	85,720

○下水道工事等に伴う移設補償費及び団地開発に伴う導管布設負担金

(単位：千円)

区分	29年度	30年度	差引
区画整理・団地	13,131	1,941	△ 11,190
一般他工事関連	11,592	12,326	734
下水道関連	131,107	227,470	96,363
供給管関連	458	271	△ 187
合計	156,288	242,008	85,720

(単位：千円)

項 目	29年度決算	30年度決算	比較増減
固定資産売却収入	8	39	31

○車両売却収入

・普通乗用車1台、軽貨物車両1台

39 千円

②資本的支出（中期経営計画主要事業は事業名に◎印）

◇経年管更新事業及び低圧導管耐震化事業が完了。

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
◎供給施設更新事業	21,467	145,286	123,819
経費内訳			
機械装置	145,286		
【目的】 老朽化したガス供給施設の更新を行い、安全で安定した供給を図る。			
【概要及び成果】 計画耐用年数による更新を基本として、更新費用の抑制を図るとともに、効率的な供給施設の更新を実施した。平成30年度は、中央監視装置の更新を行ったため、前年度に比べ事業費が増加した。			
＜主な費用＞			
機械装置	ガス中央監視装置更新工事		145,286 千円

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
◎ 経年管更新事業	172,231	56,810	△ 115,421

経費内訳

導管本支管	56,810	
【特定財源】		
工事負担金	1,138	

【目的】

白ガス管及び低圧・中圧ジュート巻鋼管などの経年管について更新を行い、保安レベルを向上し、安全で安定した供給を図る。

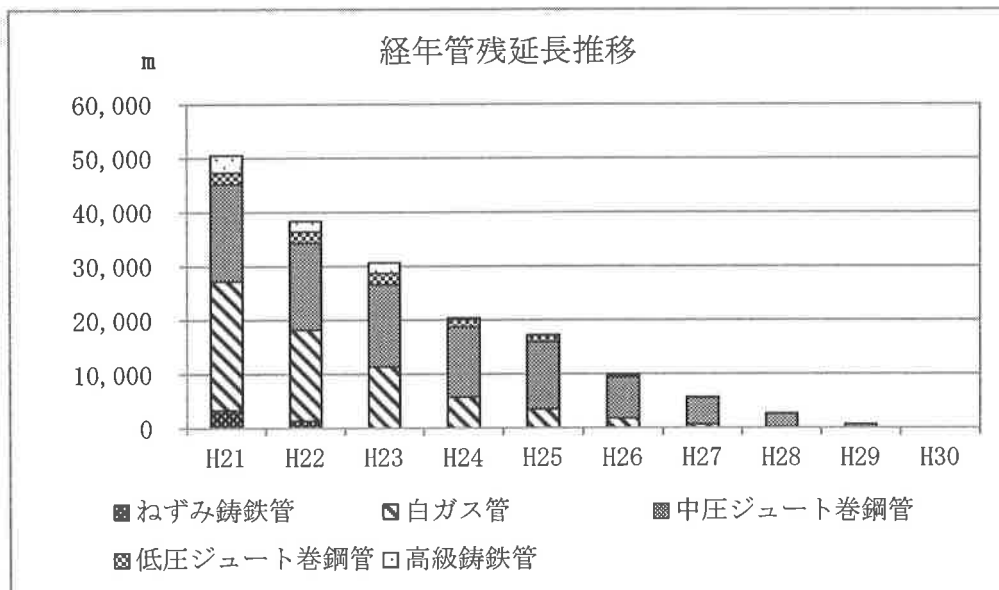
【概要及び成果】

平成16年度末の白ガス管等要対策管残延長は83,452mであったが、平成17年度から優先的に更新を進めたことにより、他工事と関連する箇所を除き、白ガス管等低圧管については平成29年度末で更新が完了した。

中圧ジュート巻鋼管の更新については、水道基幹管路耐震化事業の進捗にあわせ計画を一部前倒して事業を進めたことにより、平成30年度末で完了した。

平成30年度更新延長

管種	平成30年度更新延長	備考
白ガス管	0 m	平成29年度未完了
低圧ジュート巻鋼管	0 m	平成29年度未完了
中圧ジュート巻鋼管	639 m	合併前上越市（平成30年度未完了）
計	639 m	



【課題及び今後の方向性】

当初計画では令和2年度に完了予定であったが、同時施工の水道工事が2年前倒ししたことにより、平成30年度で事業完了した。

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
◎ 低圧導管耐震化事業	146,269	224,112	77,843

経費内訳

導管本支管	224,112
【特定財源】	
工事負担金	88,347

【目的】

地震等による供給停止区域を縮小し災害復旧期間を短縮するため、低圧導管の耐震化を進め、災害に強いガス供給網を構築し、安全で安定した供給を図る。

【概要及び成果】

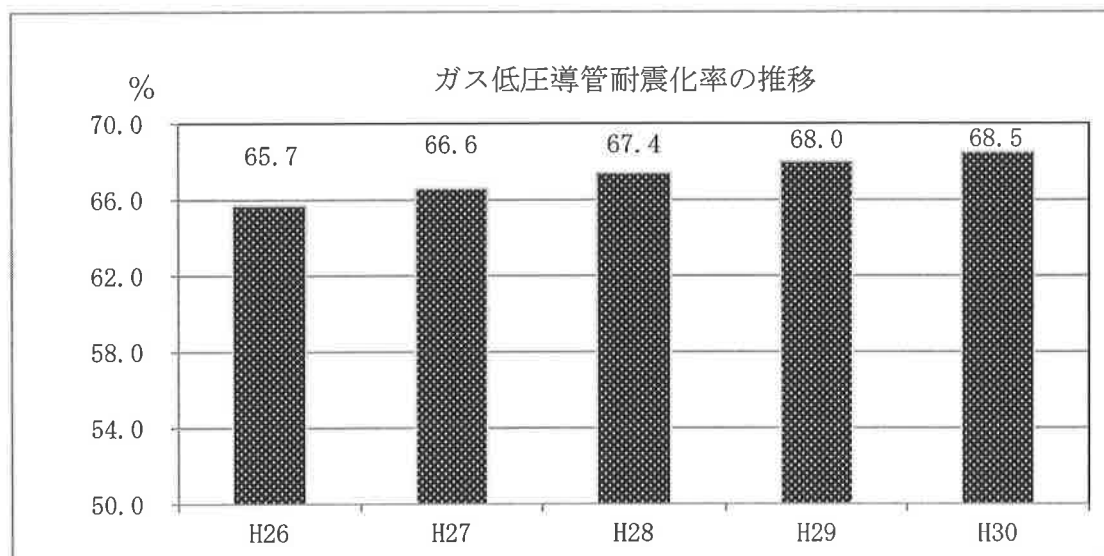
非耐震管の中から事故歴や埋設年度の古い管路を選定し更新を進めた。

布設延長 L=2,519m

平成30年度末の管路耐震化率68.5%

※低圧導管総延長826.7kmのうち、566.2km耐震化。

日本ガス協会が定める耐震化率の集計方法が変更になり、平成30年度見込みでの耐震化率が、他工事と関連する箇所を除き100%となることから事業を完了した。



【課題及び今後の方向性】

今後は変更後の基準により耐震管として集計したガス管でも、事故歴や埋設年度の古いものを選定し、水道管入替工事にあわせて、より耐震性の高いポリエチレン管への更新を進めていく。

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
◎ 中圧導管網整備事業	4,869	0	△ 4,869
経費内訳			
導管本支管	0		
【目的】			
ガス供給所間を結ぶ中圧導管網を整備することにより、ガス輸送能力の向上と相互融通による効率化を図り、安全で安定した供給ネットワークを構築する。			
【概要及び成果】			
中期経営計画で登載した南部ガス供給所及び北本町ガス供給所周辺の整備が完了したことから、平成29年度で事業は完了した。			

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
設 計 業 務	10,601	7,526	△ 3,075
経費内訳			
導管本支管	7,526		
【目的】			
ガス本支管工事の設計を行い、設計図及び設計書を作成する。			
【概要及び成果】			
CAD設計積算システムを使用して設計積算を行うとともに、業務の一部について業務委託により実施した。			
<主な費用>			
導管本支管	非常勤一般職 1人		470 千円
	本支管工事設計業務委託		5,467 千円

(単位：千円)

事業名	29年度決算	30年度決算	比較増減
その他建設改良費	1,031,179	1,002,004	△ 29,175

経費内訳

建物	42,068	導管本支管	387,830
車両運搬具	6,338	導管供給管	137,681
工具器具備品	6,171	ソフトウェア	15,162
ガスメーター	12,107	企業債償還金	394,647

【特定財源】

工事負担金	152,523
-------	---------

【概要及び成果】

<主な費用>

職員給与費（設計監督業務に係る職員分）

(単位：千円)

	職員数	給料	手当	退職給付費	法定福利費	合計
29年度	10人	37,799	25,621	0	13,014	76,434
30年度	10人	37,888	24,053	0	13,422	75,363
比較	0人	89	△ 1,568	0	408	△ 1,071

建物	新庁舎基本実施設計業務委託	26,571 千円
	新庁舎地質調査業務委託	5,933 千円
	庁舎昇降機更新工事	9,300 千円
工具器具備品	メールシーラー機更新	968 千円
	保安管理システム用OCR機器	1,600 千円
	事務用パソコン16台更新	1,742 千円
導管本支管	団地及び下水道関連工事など	327,516 千円
	布設延長 L=5,325m	
企業債償還金	財務省	156,369 千円
	地方公共団体金融機構	238,278 千円

4 第2次ガス事業中期経営計画との比較

業務指標名	単位	計画	決算	比較	計画 対比	増減理由
経年管更新率	%	90.8	100.0	9.2	↑	計画では残延長11,484mに対し10,432mの更新としていたが、水道基幹管路耐震化事業の進捗により同時施工で実施する中圧ジュート巻鋼管の更新が計画を上回り、平成30年度末で全延長11,484mの更新が完了となったため。
管路耐震化率	%	67.9	68.5	0.6	↑	計画では低圧導管総延長813kmのうち552.4kmの耐震化としていたが、区画整理等、新規埋設管が増加し、平成30年度末の低圧導管総延長826.7kmに対し耐震管延長が566.2kmに増加したため。
白ガス灯外内管 残存率	%	11.7	10.9	△ 0.8	↑	建物解体やリフォーム工事等のタイミングにあわせて白ガス灯外内管の改善が進んだ。
職員資格取得度	件/人	1.90	2.15	0.25	↑	職員へ資格取得を奨励するとともに、ガス水道技術の向上に寄与する技術資格取得に係る助成措置を引き続き実施したことにより、計画値を上回った。
家庭用選択契約 獲得件数	件	130	60	△ 70	↓	サブユーザーへの巡回営業やガス水道フェアなどのイベント等において料金割引制度やエコジョーズ等の助成金制度を周知するなどしたが、オール電化住宅等との競合により計画を達成できなかった。
家庭用1戸1月当たり ガス販売量	m ³ /件	39.7	35.4	△ 4.3	↓	一年を通じて平均気温が高く推移し、給湯及び暖房需要が減少したほか、家庭用選択契約の獲得件数が伸び悩んだことから計画を達成できなかった。
大口契約、業務用 選択契約獲得件数	件	4	6	2	↑	これまでの営業成果として、都市ガス提案及び割引制度の効果等により、燃料転換や新規物件の獲得に繋がった。
損益勘定所属職員 1人当たりガス販売量	千m ³ /人	1,486	1,567	81	↑	一年を通じて平均気温が前年に比べ高く推移し、給湯及び暖房需要が減少し、販売量は減少したものの、損益勘定職員数が計画よりも3人減少したため、計画値を上回った。

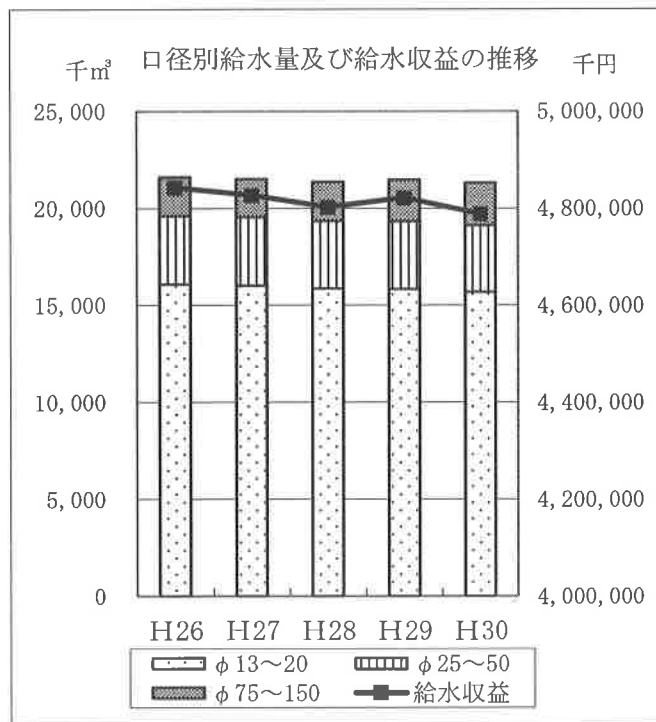
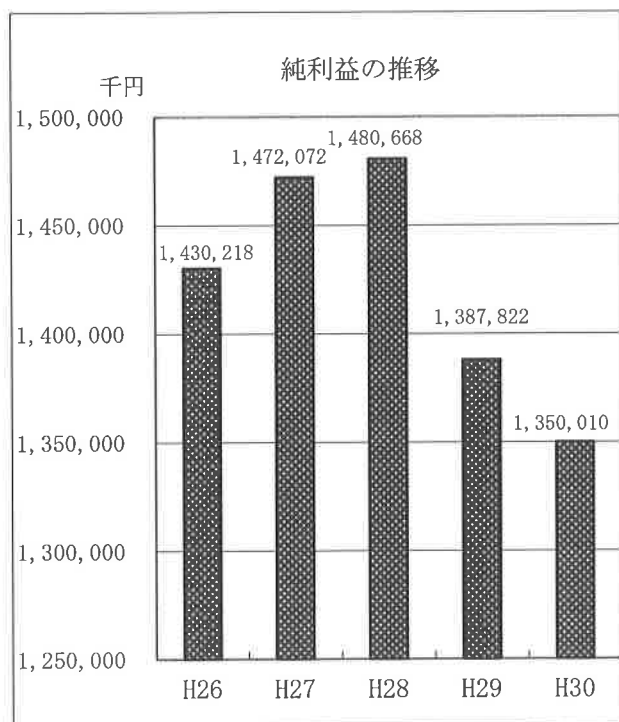
業務指標名	単位	計画	決算	比較	計画 対比	増減理由
経常収支比率	%	103.4	102.2	△ 1.2	↓	販売量の減少に加え、LNG輸入価格の上昇により10月検針分から原料調整費制度の上限を超え、売上利益が減少し、当年度純利益が減少したことから計画値を下回った。
ガス売上に対する 企業債利息割合	%	1.1	1.1	0.0	→	—
ガス売上に対する 企業債残高割合	%	58.5	59.8	1.3	↓	企業債残高はほぼ計画どおりとなったものの、平成29年4月からの料金改定により、ガス売上が2.2%減少したことから、計画値に及ばなかった。
収納率	%	99.5	99.7	0.2	↑	収納業務を民間委託し、民間のノウハウを活用したことにより、計画収納率を確保することができた。

所管委員会	農政建設常任委員会
関係案件	議案第112号
提出課	総務課

平成30年度上越市水道事業会計決算の概要

- 有収水量は、給水人口減少の影響などにより家庭用が14.1万 m^3 (0.9%)、需要の低迷により商業用が19.0万 m^3 (7.0%) それぞれ減少したものの、大口需要家の需要増により工業用が22.5万 m^3 (15.3%) 増加したことから、前年度に比べ17.0万 m^3 (0.8%) 減少の2,253.6万 m^3 にとどまった。
- 収益的収支では、有収水量が0.8%減少したことにより、給水収益が前年度に比べ3,326万円 (0.7%) 減少した。また、支出では遊休土地 (国府3・送水管管理用地) の売却に伴う固定資産売却損1,437万円を計上したほか、ダム管理費の負担金である共同施設管理分担費が1,915万円 (98.7%)、管路更新などに伴う固定資産除却費が9,027万円 (61.2%) それぞれ増加したことなどから、当年度純利益は前年度に比べ3,781万円減の13億5,000万円となった。
- 資本的収支では、基幹管路更新工事を優先的に実施し管路の耐震化を進めた結果、管路耐震化率は29.9%となったほか、浦川原区横住配水池の低地への移設にあわせ、ポンプ設備のダウンサイジングを行うなど、施設の効率化及び将来の更新需要の抑制を図った。

(注) 平成29年度から簡易水道事業を水道事業に統合したことから、年度間の実質的な比較を行うため、平成28年度以前の金額及び数値は、水道事業会計と簡易水道事業会計の合算としています。



1 業務の概要

◇有収水量は、給水人口減少の影響などにより0.8%減。有収率は、0.92%増加。

(水道事業)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度対比	
						増減数	増減率
1 行政区域内人口 人	199,079	197,380	195,880	194,132	192,068	△ 2,064	△ 1.1%
2 給水区域内人口 人	199,027	197,329	195,841	194,131	192,083	△ 2,048	△ 1.1%
3 給水人口 人	198,980	197,287	195,803	194,096	192,040	△ 2,056	△ 1.1%
4 給水戸数 戸	83,332	83,966	84,356	84,935	85,173	238	0.3%
5 普及率 %	99.98	99.98	99.98	99.98	99.98	0.00	-
6 施設能力 $m^3/日$	148,558.8	148,558.8	148,479.6	141,551.6	137,141.0	△ 4,411	△ 3.1%
7 受水量 m^3	0	0	0	0	0	0	
8 年間配水量 m^3	24,898,799	24,648,277	24,575,213	24,682,088	24,253,747	△ 428,341	△ 1.7%
9 年間有収水量 m^3	22,944,732	22,804,149	22,612,549	22,706,881	22,536,311	△ 170,570	△ 0.8%
10 一日最大配水量 (一日最大月日) m^3	72,200 (8/13)	74,003 (8/6)	71,203 (8/12)	79,311 (1/29)	79,693 (7/24)	382	0.5%
	5,827 (8/14)	5,578 (8/15)	5,358 (8/13)				
11 一日平均配水量 m^3	68,216	67,530	67,145	67,622	66,449	△ 1,173	△ 1.7%
12 一日平均有収水量 m^3	62,862	62,477	61,783	62,211	61,743	△ 468	△ 0.8%
13 有収率 %	92.15	92.52	92.01	92.00	92.92	0.92	-
14 職員数 人	87	86	86	85	85	0	0.0%

※一日最大配水量の平成28年度以前の数値は上段水道事業、下段簡易水道事業

(用水供給事業)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度対比	
						増減数	増減率
1 施設能力 $m^3/日$	3,060	3,060	3,060	3,060	3,060	0	0.0%
2 年間配水量 m^3	752,793	735,095	753,242	769,016	752,478	△ 16,538	△ 2.2%
3 年間有収水量 m^3	748,424	731,492	749,763	769,016	752,478	△ 16,538	△ 2.2%
4 一日最大配水量 (一日最大月日) m^3	2,440 (8/5)	2,443 (8/12)	2,558 (12/15)	2,816 (1/30)	2,606 (7/24)	△ 210	△ 7.5%
5 一日平均配水量 m^3	2,062	2,008	2,064				
6 一日平均有収水量 m^3	2,050	1,999	2,054	2,107	2,062	△ 45	△ 2.1%
7 有収率 %	99.42	99.51	99.54	100.00	100.00	0.00	-

2 決算の概要 ※消費税及び地方消費税抜きの金額

(1) 収益的収支

(単位：千円)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度対比		
						増減数	増減率	
収	営業収益	4,850,839	4,835,087	4,810,679	4,821,460	4,788,191	△ 33,269	△ 0.7%
	給水収益	4,842,521	4,826,703	4,802,409	4,821,460	4,788,191	△ 33,269	△ 0.7%
	広域施設 営業収益	8,318	8,384	8,270	0	0	0	0.0%
	営業雑収益	13,474	13,048	12,193	11,980	12,694	714	6.0%
	営業外収益	2,018,555	1,939,953	1,889,750	1,613,509	1,639,272	25,763	1.6%
	繰入金	403,880	396,444	405,650	139,736	136,984	△ 2,752	△ 2.0%
	加入金	48,242	52,532	45,610	51,790	50,640	△ 1,150	△ 2.2%
	長期前受 入金	1,144,973	1,096,762	1,057,511	1,059,482	1,093,409	33,927	3.2%
	その 業外 収益	96,563	87,914	87,090	81,477	89,696	8,219	10.1%
	広域施設 営業外 収益	324,897	306,301	293,889	281,024	268,543	△ 12,481	△ 4.4%
入	用水供給事業収益	93,326	91,333	92,438	91,292	89,780	△ 1,512	△ 1.7%
	用水供給 収益	75,143	74,191	75,987	75,565	74,752	△ 813	△ 1.1%
	用水供給 営業外 収益	18,183	17,142	16,447	15,727	15,028	△ 699	△ 4.4%
	用水特別 供利	0	0	4	0	0	0	0.0%
	特別利益	5	7,733	189	410	12	△ 398	△ 97.1%
収入計	6,976,199	6,887,154	6,805,249	6,538,651	6,529,949	△ 8,702	△ 0.1%	
支	営業費用	4,989,649	4,932,669	4,863,844	4,718,503	4,764,875	46,372	1.0%
	職員給与費	531,649	525,806	479,258	488,403	492,875	4,472	0.9%
	(うち退職給付費)	(0)	(0)	(0)	(9,671)	(11,028)	(1,357)	14.0%
	修繕費	211,700	225,891	215,131	171,517	152,983	△ 18,534	△ 10.8%
	動力費	92,714	98,931	85,877	89,941	96,406	6,465	7.2%
	薬品費	18,038	18,573	16,674	15,592	15,664	72	0.5%
	委託料	210,671	250,698	264,863	263,175	264,648	1,473	0.6%
	受水費	8,318	8,384	8,270	0	0	0	0.0%
	共同施設 管理分担費	29,877	35,115	67,278	19,417	38,576	19,159	98.7%
	減価償却費	2,204,936	2,238,776	2,253,602	2,277,494	2,264,945	△ 12,549	△ 0.6%
	広域施設 営業費用	1,199,237	1,185,945	1,180,536	1,107,038	1,070,460	△ 36,578	△ 3.3%
	その 業費 費用	482,509	344,550	292,355	285,926	368,318	82,392	28.8%
	営業雑費用	10,934	11,375	11,941	10,225	11,294	1,069	10.5%
出	営業外費用	421,487	401,316	379,080	357,022	326,916	△ 30,106	△ 8.4%
	支払利息	341,854	328,080	310,745	292,973	274,115	△ 18,858	△ 6.4%
	その 業外 費用	16,290	14,683	14,227	14,196	7,235	△ 6,961	△ 49.0%
広域施設 営業外 費用	63,343	58,553	54,108	49,853	45,566	△ 4,287	△ 8.6%	

区 分		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度対比	
							増減数	増減率
支 出	用水供給事業費用	70,959	69,652	69,101	64,770	62,480	△ 2,290	△ 3.5%
	用 水 供 給	67,078	66,375	66,073	61,978	59,930	△ 2,048	△ 3.3%
	用 水 供 給	3,545	3,277	3,028	2,790	2,550	△ 240	△ 8.6%
	用 水 供 給	336	0	0	2	0	△ 2	皆減
	特 別 損 失	52,952	70	615	309	14,374	14,065	著増
支 出 計		5,545,981	5,415,082	5,324,581	5,150,829	5,179,939	29,110	0.6%
収支差引（純損益）		1,430,218	1,472,072	1,480,668	1,387,822	1,350,010	△ 37,812	△ 2.7%

（2）資本的収支

（単位：千円）

区 分		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度対比	
							増減数	増減率
収 入	企 業 債	373,000	323,000	300,000	200,000	200,000	0	0.0%
	補 助 金	184,021	134,500	111,934	170,215	194,934	24,719	14.5%
	工 事 負 担 金	376,644	314,855	328,934	313,355	374,562	61,207	19.5%
	工 事 負 担 金	376,644	314,855	328,934	313,355	374,562	61,207	19.5%
	繰 入 金	196,612	153,979	130,786	117,116	112,380	△ 4,736	△ 4.0%
	繰 入 金	135,680	123,078	118,022	109,582	108,730	△ 852	△ 0.8%
	広 域 施 設	60,932	30,901	12,764	7,534	3,650	△ 3,884	△ 51.6%
	固 定 資 産	96	413	284,100	120	10,537	10,417	著増
	用 水 本 的 収 入	3,410	2,308	16,737	423	204	△ 219	△ 51.8%
	用 水 供 給	0	579	128	0	0	0	0.0%
	用 水 供 給	3,410	1,729	714	422	204	△ 218	△ 51.7%
	用 水 供 給	0	0	15,895	1	0	△ 1	皆減
収 入 計		1,133,783	929,055	1,172,491	801,229	892,617	91,388	11.4%

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度対比		
						増減数	増減率	
支	建設改良費	2,378,300	2,049,620	2,230,577	2,188,771	2,262,569	73,798	3.4%
	(うち職員給与費)	(70,208)	(70,055)	(93,377)	(93,169)	(91,349)	(△ 1,820)	(△ 2.0%)
	土地	0	2,305	0	0	0	0	0.0%
	建物	7,732	2,957	4,588	6,188	43,409	37,221	601.5%
	構築物	103,401	47,905	29,756	163,761	255,579	91,818	56.1%
	機械装置	71,576	72,524	118,787	60,314	112,414	52,100	86.4%
	車両運搬具	11,659	10,818	4,685	10,297	2,347	△ 7,950	△ 77.2%
	工具器具備品	6,589	5,013	15,312	23,701	3,877	△ 19,824	△ 83.6%
	水道メーター	3,343	3,183	3,942	3,942	3,798	△ 144	△ 3.7%
	導管本支管	1,815,180	1,523,928	1,715,529	1,552,642	1,497,574	△ 55,068	△ 3.5%
	導管給水管	265,587	259,672	248,522	276,296	287,742	11,446	4.1%
	導水管	18,420	34,029	0	42,797	15,929	△ 26,868	△ 62.8%
	ソフトウェア	57,069	52,976	8,150	2,370	30,618	28,248	著増
広域施設設備	17,744	34,310	81,306	46,463	9,282	△ 37,181	△ 80.0%	
出	企業債償還金	1,230,083	1,148,567	1,105,630	1,077,757	1,076,928	△ 829	△ 0.1%
	企業債償還金	914,925	893,444	889,531	881,186	891,198	10,012	1.1%
	広域施設 企業債償還金	315,158	255,123	216,099	196,571	185,730	△ 10,841	△ 5.5%
	用水供給 資本的支出	18,631	16,199	16,644	13,601	10,914	△ 2,687	△ 19.8%
	用水供給 建設改良費	993	1,921	4,550	2,600	519	△ 2,081	△ 80.0%
	用水供給 企業債償還金	17,638	14,278	12,094	11,001	10,395	△ 606	△ 5.5%
支 出 計	3,627,014	3,214,386	3,352,851	3,280,129	3,350,411	70,282	2.1%	
差 引 不 足 額	2,493,231 (2,531,321)	2,285,331 (2,315,760)	2,180,360 (2,211,003)	2,478,900 (2,514,252)	2,457,794 (2,501,194)	△ 21,106 (△ 13,058)	△ 0.9% (△ 0.5%)	
補 填 財 源	過年度分損益勘定 留保資金	910,294	225,301	139,809	303,056	161	△ 302,895	△ 99.9%
	当年度分損益勘定 留保資金	1,621,027	1,717,459	1,574,194	1,888,196	1,804,033	△ 84,163	△ 4.5%
	減債積立金	0	124,000	180,000	97,000	286,000	189,000	194.8%
	建設改良積立金	0	249,000	317,000	226,000	411,000	185,000	81.9%
	計	2,531,321	2,315,760	2,211,003	2,514,252	2,501,194	△ 13,058	△ 0.5%
企 業 債 残 高	19,208,091	18,368,247	17,550,522	16,661,764	15,774,441	△ 887,323	△ 5.3%	

※括弧書は、特定収入（工事負担金等）分の消費税及び地方消費税納税計算後の不足額

収益的収支

収入：65億2,994万円

水道料金収入 47億8,819万円
その他の収入 3億6,616万円
長期前受金戻入 13億7,559万円

支出：51億7,993万円

人件費 5億7,644万円
修繕費 1億6,351万円
動力・薬品費 1億7,354万円
委託料など 8億4,266万円
支払利息 3億2,217万円
減価償却費 31億161万円
収支差額（利益） 13億5,000万円

資本的収支

収入：8億9,261万円

企業債 2億円
補助金 1億9,493万円
工事負担金 3億7,456万円
繰入金 1億1,258万円
固定資産売却収入 1053万円
収支不足額 24億5,779万円

支出：33億5,041万円

建設改良費 22億6,308万円
企業債償還金 10億8,732万円

留保資金等 補填財源 (減価償却費から長期 前受金戻入分の金額を 除いた額)
--

減価償却費等の損益勘定留保資金等で補填する。